

(抄録)

研究課題名：養護教諭の複数配置を促進・阻害する要因の量的・質的検討

研究代表者名：鹿野晶子

【目的】本研究の目的は、養護教諭の複数配置経験の有無、複数配置の要否とその理由等を調査し、養護教諭の複数配置を促進する要因とともに、その障壁となっている要因を明らかにすることとした。【方法】本研究は、小学校、中学校の養護教諭に対して、郵送にて URL を付した依頼文書を配布し、Google Form を用いた web 調査により実施した。調査項目は、所属校種、養護教諭経験年数、複数配置経験の有無、複数配置の要否とその理由等とした。なお、本研究の調査は現在進行中であることから、本報告書では 2024 年 3 月時点での結果を報告する。【結果および考察】本研究の結果、複数配置を経験したことが有る者は 369 名 (46.5%)、無い者は 424 名 (53.5%)、複数配置の必要性を感じている者は 624 名 (78.7%)、感じていない者は 169 名 (21.3%) であった。また、養護教諭の複数配置の経験を有する者は、その必要性を感じている者が有意に多い様子が示された。さらに、その理由に記述された内容は、必要性を感じる者では「子どもたちの心の健康課題が増加し対応が追いつかない。すぐ相談でき、対応を一緒に考えることができる」、「健康問題が多様化しているため」等、子どもの視点に立ったものであるのに対して、必要性を感じない者では「1 人職でやってきている養護教諭が 2 人制で一緒にやるのが難しい」、「それぞれの進め方があるため、同じ方向を向いて仕事を進めることは難しい」等、職務の遂行者としての視点に依拠したものであるという特徴が観察された。以上の結果から、養護教諭の複数配置は養護教諭自身が希求する体制であり、その思いは複数配置の経験により裏打ちされるものである様子が確認された。